

## 【調査研究報告】

# 豊中市の子どもの学びと育ちに関する 総合的な調査研究Ⅲ

- 第1章 豊中市の子どもの学びと育ちに関する  
総合的な調査研究Ⅲ 総論
  - 第2章 量的データから見る豊中市の子どもの学びと育ち
  - 第3章 学びあいを支える学力
  - 第4章 ICT 機器使用スキルと主体的・対話的で深い学び
  - 第5章 地域・社会参加志向の規定要因
  - 第6章 運動と学力・非認知能力・精神的健康の関係
  - 第7章 パネルデータで見る児童生徒の学びと育ちの  
3年間の変化
  - 第8章 パネルデータで見る「中1ギャップ」の発生状況
  - 第9章 幼児の健康と地域のレジリエンス
  - 第10章 つながりが支える学び・育ち（1）  
——義務教育学校の取り組みから——
  - 第11章 つながりが支える学び・育ち（2）  
——学園制による小中一貫教育校の開校に向けて——
  - 第12章 豊中市の子どもの学びと育ちに関する  
総合的な調査研究 総括  
——行政データを用いた調査研究のあり方と  
自治体シンクタンクとしての役割——
- 資 料 児童生徒・保護者アンケート調査票

## 【アドバイザー講評】

「豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究」  
を終えて

とよなか都市創造研究所では、市の持続的な発展と計画的な市政の推進に資するため、市を取り巻く社会経済環境の変動を見据えつつ、中長期的視点に立った都市政策に関する調査研究を実施している。令和5年度（2023年度）から令和7年度（2025年度）にわたる調査研究は、「豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究」として、豊中市のすべての子どもの可能性・チャンスの最大化に向けたプロジェクトに取り組んできた。プロジェクトの最終年度である本年度は、パネルデータの特性を活かした分析、質的調査の実施に加え、これまでの知見を整理する総括を行った。

第1章では、総論として3年目のプロジェクトの方向性や使用データなどを整理し、本年度の報告構成についてまとめている。第2章から第9章にかけては、量的データを用いた統計分析の結果をまとめている。具体的には、第2章で子どもたちの学びと育ちの概況、第3章で児童生徒の学びあい、第4章でICTスキル、第5章で地域や社会への参加志向、第6章で運動、第7章でパネルデータを活かした3年間の変化、第8章で中1ギャップ、そして第9章で幼児の健康をテーマとしている。第10章および第11章では、定量調査を深掘りするべく、学校長インタビューの実施内容をまとめた。最終章である第12章では、本調査研究の3年間の振り返り、成果、課題、そして自治体シンクタンクとしての役割についてまとめている。

報告の締めくくりとして、本プロジェクトのアドバイザーを務めていただいた先生方より、専門的な見地から本プロジェクトに対する総括および講評をご寄稿いただいた。